

第4回 練馬区立春日町第三保育園運營業務委託事業者選定委員会
会議要点記録

平成24年7月1日（日）午前9時30分～午後3時20分

春日町青少年館教室

出席者：学識経験者2名、有識者2名、区立保育園園長経験者1名、
こども家庭部長、保育課長、事務局（保育計画調整課長）

1 応募事業者プレゼンテーション

運營業務委託プロポーザルに応募した事業者によるプレゼンテーションを、20分間受け、その後、質疑応答を20分間行った。

なお、春日町第三保育園の保護者12名の参観があった。

《父母の会からの質問事項に対する回答》

質問1 異年齢統合保育及び障害児保育についてどう考え、これまで具体的にどう対応してきましたか。

事業者A 園では、3歳～5歳にかけてグループ分けし、朝の時間、午後の時間を活用して異年齢保育を行っており、いろいろな遊びをしている。障害児は1名在園している。障害児を持つ保護者に対しては、まず信頼関係を築くことが重要であり、面談などを実施して相談しやすい環境を作っている。

事業者B 園では、3歳～5歳を対象に1グループ3名程度で分けて実施しており、子どもたちも毎回楽しみにしている。障害児は1名在園している。障害児に対しては、1つの個性として捉え、それを踏まえて保護者と接するようになっている。

事業者C 異年齢保育については、特に年齢構成やグループ分けは実施せず、自由に他の年齢のクラスに遊びに行く日を設けている。障害児は2名在籍しており、特徴のあることを個性として受け止め、保護者と接するようになっている。

質問2 人命に関わる事故の有無と、その時及びその後の対応について教えてください。

事業者A 人命に関わる事故はない。過去に園児でてんかんの発作が起きたことがあったが、その際も的確に対応し、保護者への連絡も迅速に行った。

事業者B 人命に関わる事故はない。法人としては、危機管理室を設置し、各マニュアルの整備も行っている。

事業者C 人命に関わる事故はない。ケガをした場合でも、直ちに医者に診せるような体制をとっており、保護者への連絡も迅速に行う。

質問3 災害対策及び事故対策などの危機管理について

事業者A 3.11の震災について、発生時は園内に避難し、放射能漏れの話もあったので、その後の園外活動も中止した。給食に使用する食材は、検査されたものを使用し、産地についても公表している。

事業者B 3.11の際は園内で待機するようにした。危機管理対策として、全員の3日分の食糧備蓄があること、給食で使用する食材の産地を公表していること、法人内の他事業所との連携強化、メーリングなどの連絡体制の構築を行っている。

事業者C 3.11では、発生後ただちに子どもを一つの部屋に集め、ラグマットなどをかけ、子どもの安全を確保し、対応が翌日まで及んだ。放射能対策については、行政の指示に基づき対応を行っている。給食の食材についても産地を公表するなどにより対応している。

質問4 引継ぎにあたってどのような心構えで挑みますか。また、保護者や子どもの混乱に対してはどうか対応されますか。

事業者A 引継ぎ計画に基づいて行う。可能であれば、予定している以上の日数および人員をかけて引継ぎを行いたい。まずは現在いる職員との信頼関係を深め、引継ぎやすい環境を作りたい。

事業者B 準備委託期間に各クラスにリーダー保育士1名以上を配置し、早い段階から子どもと仲良くなれるような体制にするとともに、保護者や子どもが不安にならないようにする。

事業者C 春日町第三保育園の環境や保育の取組みについて、しっかり引継ぎを行い、落ち着いた段階で独自の保育にも取り組んでいきたい。異年齢保育についても、しっかり引継いでいきたい。

2 園長候補者等ヒアリング

応募事業者に対して、ヒアリングを40分間（園長候補者のアピール10分・質疑応答30分）行った。

《父母会からの質問事項に対する回答》

質問1 保育をする上で大切だと思うことを順にあげてください。また、その理由も教えてください。

事業者A 第一に、命を預かっていることの重要性を認識することである。そうすることで、保育士の危機管理の向上にもつながる。二つ目に、成長を促す保育を実践することであり、子どもの心を育てることにつながる。三つ目は、園長自ら、反省、評価し、おごらずに保護者に接することが大切である。良好な関係を築くことで、円滑な園運営にも寄与すると考えられる。

事業者B 第一に、子どもの個性、気持ちを大切に保育を心がける。例えば、子どもに対する声かけについても、意欲を持てるような言葉で声をかけるようにする。二つ目は生活のリズムを大切にすることであり、健康面や子どもの成長、発達にとって最も重要なことである。三つ目に集団で遊ぶ、遊べるような環境づくりが必要である。集団で遊ぶことを通して、相手の気持ちなども理解できるようになる。そのほか、自然とのふれ合いを通じて、豊かな心や思考力を育てることも大切である。

事業者C 最も大切なこととして、命を守るということである。預かった命をそのまま保護者にお返しする気持ちが必要である。二つ目として、子どもを愛するということである。常に子ども中心の保育を考え、子どもが安心できるように、愛おしく思う姿勢が大切である。三つ目として、叱ることのない保育を行うことである。人と人とのつながりを大切にすることを大切にしたい。そのほか、ホスピタリティを大切にしたい。保護者とのやり取りで、うまく意思疎通できていない場合でも、まず理由を考え、落ち着いて接するように心がける。

質問2 子どもの怪我、病気、子ども同士の喧嘩を含め、保護者への対応についてどう考えますか。

事業者A まずは、園が責任を負うということを保護者に伝える。その上で、子どもたち一人ひとりの状態を常に把握し、職員間で共有する。喧嘩や怪我などあった場合には、まず、子どもの考えを聞き、保護者に対しては、状況、原因、理由、その際の保育士の対応などを伝えるようにしている。

事業者B まずは、病気に対する抵抗力をつけることが必要で、そのための基礎として生活リズムを作る。怪我については、運動を通じて予防できるようにする。その内容について、保護者に理解してもらおう。子ども同士で喧嘩した場合は、まず叱るのではなく、理由について聞くと同時に落ち着かせる。その後、怪我などがあつた場合は保護者に対して説明するとともに、謝罪する。

事業者C 怪我があつた際は、状況に応じて救急車を呼ぶとともに、保護者にも連絡をする。その場合、ありのままを正直に伝える。発熱の場合では、直ちに保護者に連絡するのではなく、普段の状態と比較し、その容態に応じて判断する。子ども同士の喧嘩では、まず、園に責任があるということに対して責任を持つことである。その上で、保護者に対しては、誠意を持って対応する。